

1. 福岡城の構え

天守閣(その2)

織・豊時代以降の天守閣は、名城図鑑や日本城郭の資料に、その形態が写真や絵図で描かれている。また、江戸時代の兵学に、「天守十徳」として、天守閣の役割が述べられているので、参考までに紹介する。

【天守十徳】

- | | |
|---------------|--------------|
| ① 城内を見る | ⑥ 守護の下知自由 |
| ② 城外を見る(観る) | ⑦ 寄手の左右を視て計る |
| ③ 遠方を見る(眺る) | ⑧ 飛物、掛り自由 |
| ④ 城内武者配り自由 | ⑨ 非常時、変化を識る |
| ⑤ 城内の気を見る(看る) | ⑩ 城の飾り |

天守閣は、戦闘に備える司令所であり、戦略指令の展望所である。その一方、領地のシンボルであり、国主の命そのものである。

本丸台地上、約10mの石垣の上に、東西11間というから、凡そ20m、南北10間、約18mの基礎台があり、その上に天守閣を築いたとすれば、凡そ5層6階、地上80尺近くあると見立てられているので、凡そ13、4m位の天守閣を想像することができる。

まさに世界遺産である姫路城より、1周り小さい天守閣の姿と見てよいだろう。



福岡城天守閣台地に姫路城天守閣を配置した合成イメージ写真(長谷川賢輔氏作成)



中神建築事務所 中神文雄氏製作「福岡城天守閣」(40分の1の木造模型)



製作者 中神文雄氏



「福岡城天守閣」の骨組み(30分の1模型)

〈平成23年7月16日 糸島市「イマジンハウス」にて撮影〉